

『将来のために考へること』

練馬区立開進第一中学校 第三学年 豊吉 紗英

七一一九。皆さんはこの数字を知っていますか？実はこの数字は、緊急安全センター事業の電話番号であり、主に救急車を呼ぶべきか、今すぐ病院に行くべきなどの相談で利用されます。私がこの電話番号を知ったきっかけは、偶然つけていたテレビ番組でした。

そのテレビ番組では、救急車の有料化について討論をしていました。近年、日本では救急車の出動数が年々増加している。そして、そのうちの約五割が軽症であり、入院が必要のない人だと知りました。さらに衝撃を受けたことは救急車の一度の出動で約四万五千円もの費用がかかるということです。日本では救急車の運用は行政のサービスの一つとされていて、その費用に私たちが日々支払っている税金が利用されています。だからこそ私たちは急な命にかかる出来事が起きた時に簡単に救急車を利用することができるのです。

しかし、テレビ番組でもあつたように近年、救急車を適切に利用しない人達がいます。良くないう使い方とは、タクシー代わりに利用したり、自分で病院を探すのが面倒だからだつたりと、自分勝手な使い方のことです。このような背景から、海外では国ごとにルールは異なっていても救急車の有料化が一般的になっています。実際、国内でも一部地域で軽症患者を対象とした実質的な有料化が進められています。私は、将来日本全体で有料化にならないために、どうすればよいか一人一人が考えなくてはいけないと思いました。なぜなら、有料化には、経済的に余裕がない人などが本当に必要な時に救急車を呼ぶことにためらいを感じてしまうなどのデメリットがあるからです。確かに、有料化によつて不適切な使い方をする人は減ると思います。しかし有料化によつて命の一分一秒を争う場で救急車を利用することにためらいを感じてしまつては本末転倒であると考えます。だからこそ、みんなが救急車に税金が使われていることをよく理解して、最初に紹介した救急安全センターなどのサービスを適切に利用していくことが重要であると思います。

今現在、救急車の運用に税金で賄えていることはとてもすごいことだと思いました。そのうえで私たち国民が救急車の利用方法について見直し、税金の使用量を自分たちで減らしていくことができれば、他の部分に税金を使うことができ、さらに過ごしやすい国になるのではないかでしようか。私はまだ一度も救急車を利用したことありません。ですが、将来私自身や大切な家族や友達、近くにいた人に命にかかる出来事が起きてしまったときに、救急車を誰もが利用しやすい国であります。そのため、救急車を利用する基準や七一一九などのサービスについて学び、もしもの時に救急車が利用しやすい国作りを一人の国民として意識していきたいです。